



新春
座談会

こどもにやさしい まちづくり



後藤 美奈子さん 中村 友紀さん 高畑 博 市長 山城 いづみさん 風間 清武さん



山城 いづみさん
ふじみ野市子ども会
育成団体連絡協議会

ふじみ野市郷土かるた大会やふじみ野っ子まつりなどで、こどもたちの活動を推進。地域でこどもの心身の発達を見守る活動を行う。

中村 私が子どもの頃の遊びは、空き地や公園で野球や虫取りをする外遊びが中心でした。知らない大人が「気を付けろよ」「ケガするなよ」と声をかけてくれ、今思うと、地域でこどもたちを見守り、気にしてくれていたのだと思います。

また、野球でボールを飛ばし過ぎ、ガラスを割って怒られるといったこともありました。仲間と一緒に謝らなくてはいけないという連帯感も、そこで学んだのかなと思います。

今は、空き地も少ないし、公園でのボール遊びの禁止など、こどもにとって制限が多いと感じます。

後藤 私は一面田園地帯の田舎でのびのび過ごし、大きな夢を叶えるには、時間もお金もかかるところで育ちました。ふじみ野市は、都内まで近く、どんなものも手に入り、田舎育ちの私からしたらとても羨ましい環境です。

子育てをしていて、こどもに「公園でボール遊びしてはダメ、大きな声を出してはダメ」と、「ダメ」の理由を言い聞かせてきました。自分がこどもだった頃は許されてきたことを、大人になってなぜ「ダメ」と言うんだらうと、疑問がありました。禁止ばかりの中では気力や希望がなくなってしまう。こどもたちには、禁止されることが少なく、未来に希望が持てる環境の中で、安心してもっと貪欲に自分の夢に向かって挑戦できる、そんな環境が大事だと思います。

風間 さまざまな場面で今のこどもたちは、窮屈だと感じます。

市長 自分のこどもの頃とはだいぶ環境が変わっていることを実感しますね。「ボール遊びができる公園がないからどこで遊べばいいの」とこどもたちに言われることもあります。

こどもたちを取り巻く環境を良くするために、大人も対応できる方法や地域に合った体制を考える必要がありますね。



中村 友紀さん
自治組織連合会

新興住宅地で自治組織を立ち上げ、防災・防犯活動、環境美化、交流・親睦など、地域の力で支えあう絆作りの活動をしている。地域活動とともに、地域内の小・中学校でも活動を行う。

中村 条例策定にあたって、皆さんが議論し、完成するまでに気がなった点や感じたことがあったらお聞かせください。

山城 今のこどもや子育て中の親たちは、周りにとっても気をを使って生活しています。

こどもが元気に遊んでいる声や赤ちゃんの泣き声に苦情が来たり、電車やバスの中でベビーカーを邪魔にされたり、とても厳しい環境です。その親のストレスがこどもへの対応や児童虐待につながるケースもあると思います。

この条例を機に、赤ちゃんやこどもがぐずっていたらニコニコと微笑んであげられる、そんな大人がたくさんいるふじみ野市になれば良いと思います。

市報1月号の新春座談会もこととして12回目。今回のテーマは「こどもにやさしいまちづくり」です。

市では令和2年10月に「こどもにやさしいまちづくり」を目指した条例策定委員会を立ち上げ、議論の後、令和4年4月に「こどもの未来を育む条例」を制定しました。座談会には、この委員会に参加いただいた市民の皆さんにお集まりいただきました。

市長 皆さん、明けましておめでとうございます。こどもを取り巻く環境は、さまざまな要因で日々変化しており、全国的にこどもが脅かされる状況が続いています。

市では、こどもの権利擁護と体力向上の取り組みを軸に、こどもが直面する問題を家庭や学校、地域社会全体で解決する体制を整え、推進するための「こどもの未来を育む条例」を制定しました。

条例策定に向けて議論する中で、条例策定委員会の皆さんの思いや目標を伺い、市報を読んでいる皆さんも、一緒に「こどもにやさしいまちづくり」に参加する一歩を踏み出す気持ちになれたらいいなと思います。

市長 昔の自分と比べて、今のこどもの環境や遊び、感じることに違いについて、大人になって思うことをお聞かせください。

山城 こどもの頃は自由に遊び回り、一人で大人になったと思っていました。自分も子育てをしてから、周りの大人たちが私たちを守り、陰で支えてくれていたことに気が付きました。

今のこどもたちには交通事故や不審者など危険な事がたくさんあるため、昔より多くの大人が見守り、さまざまな場面でサポートしています。そういった地域での大人の活動を、保護者や学校が連携してこどもたちに分かりやすく伝えていただいています。そのおかげもあり、私も周りの人たちも、こどもたちから感謝の言葉や「自分もいつか人の役に立ちたい」と言ってもらうことがあります。こどもの頃の私とは大違いで偉いと感じます。



条例について詳しくは市ホームページをご覧ください。



高畑 博 市長

こどもたちを主役として このまちに暮らす全ての市民がひとつの家族のような お互いを思いやるあったかいまちに。



中村 Kenji

私が地域や学校での活動を始めたのは、こどもが小学校へ入学する時に市内に引っ越しして来てからです。新興住宅地であっても、こどもたちに「こがふるさと」と思ってもらいたくて、経験もない中、失敗しても仕方ないと思いながら、仲間とともに活動してきました。地域の活動はこどもに身近なところで大人の姿を見せられる場です。ひたすらに行動する大人の後姿を見せ、失敗を恐れずチャレンジすることの大切さを教えたいと思っています。

市内のこどもたちに実施した、こどもの思いや課題を把握するアンケートの結果の一つに「大人に手本を見せてほしい」とあり、自分なりに納得しました。



後藤 Hiroshi

自分で子育てし、こどもたちと関わる仕事をしてきて感じたことは、こどもには大人の目に見えていないたくさんの方がいるということです。また、どれだけの大人がそのことに気付き、目を向け、耳を傾けているのかと思います。

こどもたちのSOSをどのように察知して動くのか。未来あるこどもたちが、少しでも明るい将来を思い生活できるのか、

こどもたちの心のケアや想像する力など、文化やスポーツの果たす役割は、大きいと思います。この条例で、地域の大人が見守る心を持ち、こどもにとって安心できるまちになることが大事だと思います。



風間 Hiroshi

私は市内出身です。幼少期にお世話になった人がいるこのまちで、大人になった私が、今度は今のこどもたちのために何かできないかと考え、どんな境遇のこどもにもスポーツをする機会をたくさん与えたいという思いで活動しています。仲間やコーチとの上下関係、先輩への憧れや連帯感、それを見守る大人などから、さまざまなことを学び大人になってほしいです。



中村 Kenji

こどもたちが、心身ともに健やかに成長できるように、市全体でこどもや子育て家庭を助け、悩みの解決や、こどもの権利を守っていくために、さまざまな背景から条例を検討いただいたことが分かりました。

こどもの体力低下を語る

市長 近年、こどもの体力低下が話題になりますが、どんな思いから条例を検討されましたか。



中村 Kenji

こどもの遊びや活躍できる場を作り、自然と体力向上できるようにしていきたいですね。そのためには、保護者や地域の大人たちが連携して地域力を高め、誰もがこどもたちの成長を見守っていきけるような環境を作っていくことが大切だと思います。

こどもの未来を語る



中村 Kenji

最後に、この条例を基本として、皆さんがこどもたちのためにやりたいことや夢や目標などがあれば教えてください。山城 たくさんのこどもたちと仲良くなって、困った時に相談してみようかなと顔が浮かぶ「近所のおばちゃん」という存在になりたいです。親でも先生でもない立場で、こどもたちがいつでも笑顔でい



後藤 美奈子さん
ふじみ野市音楽家協会

ふじみ野市の音楽家と市民の皆さんとともに、音楽を通して人や心がつながる交流とまちづくりを行う。郷土の音楽文化の振興と、将来を担うこどもたちの育成をするために活動中。



山城 Mami

体力について条例に入れるのは全国初ということで、特別感がありました。こどもたちが外で元気に遊んでいる姿を見かけることがとても少なくなっています。公園でのボール遊びや、家の周りを走り回るといった、昔は当たり前でできたことができない環境が体力低下につながっているのだらうと思います。



中村 Kenji

私がこどもの頃を思い出すと、毎日のように学校から帰ってから暗くなるまで遊んでいました。今はこれはダメあれはダメ、塾だ勉強だと窮屈な思いをするともに、体を動かさなくともゲームやSNSなど、仮想の楽しい空間、魅力的な空間がたくさんあると思います。しかし、こどもの頃にしか経験できないような外遊びを楽し



中村 Kenji

こどもたちが大人になつたときに「こどもの頃、こういうことをしてもらったな」「地域づくりではこんなことをしている人がいたな」と思い出し、「自分もやってみようかな」と、地域のため、その時代のこどもたちのために行動できる大人になつてほしいです。



後藤 Misono

条例を策定して終わりでなく、理念が浸透するよう、大人たちが頑張りたいたいです。こどもは、いずれ大人になります。大人になりたての若い大人の力も大切で、絶え間なく続けることが地域の切れ目ない縦のつながりになっていきます。ふじみ野市で育つたこどもたちも、他の地域へ移り住んだとしても、そのまちでたくさんさんの愛を持ち、豊かな心で生きていってほしいです。

私は、音楽を通してこどもたちだけでなく全ての世代が豊かな心で過ごせるまちになり、その中にこどもたちの幸せや笑



風間 Hiroshi

こどもたちには経験を大切にし、自ら考え、行動できる力をつけてほしいです。野放しにするのではなく、見守り、本当に危険な時は止めに入る地域の大人の力も必要です。



中村 Kenji

本日は、いろいろとお話を聞かせいただきありがとうございます。

こどもたちが直面する問題を解決することができる「こどもにやさしいまち」を実現し、こどもの未来を育んでいくためには、市などの行政機関だけでなく、家庭や学校をはじめとした地域社会全体での取り組みが重要になってくると思います。引き続き、ふじみ野市全体で子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。市報を読んでいる皆さんも、ぜひお力添えをお願いします。



風間 清武さん
ふじみ野市スポーツ協会

少子化やスポーツ離れが懸念される中で、未来をつくるこどもたちの場づくりから体験・指導まで、世代を超えて広くスポーツを勧める活動を行う。